

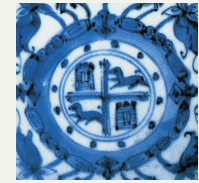
松浜軒／松井文庫の至宝

ヨーロッパ人も憧れた中国磁器の魅力 「青花花蝶文扁壺」

白いうつわに青の絵付、日本人が愛してやまない染付磁器。日本での磁器生産は、江戸時代初期の有田にはじまりました。日本人が目指したものは中国磁器の白さと鮮やかな文様。なかでも景德鎮窯で十六世紀前後に焼かれたものは技と美の両面に優れ、大航海時代というグローバル化のなかで遠くヨーロッパ貴族の心をも虜にするほどでした。



青花花蝶文扁壺 景德鎮窯
中国・明時代(16～17世紀)
松井文庫所蔵



裏面中央にフェリペ二世の紋章を意匠化した絵付

松井文庫には、わび茶の道具をはじめ国内外の陶磁器が蒐集されていますが、今回紹介するのは中国・景德鎮窯で焼かれた珍しい磁器(写真)です。タイトルの「青花」とは、日本でいう染付の中国での呼び方で、「花」には文様という意味があります。あえて「青花」と呼んで、日本の染付と区別したわけです。

「扁壺」とは、正面が丸く側面が扁平な壺のこと。元来の用途は携帯用の水入れや酒入れでしたが、松井文庫のそれには「花生」と箱書きがあり、日本における独自の用途がうかがえます。

コバルトで描かれた花と蝶の文様は、鮮やか過ぎず暗すぎず、日本人好みの色合いを呈していますが、文様の一部にスペイン王室フェリペ二世(1527～98)の紋章があらわれ、本来ヨーロッパ向けの品だったことがわかります。

伝来は不明ですが、日本にもたらされた極めて希少な作例で、独特の形と紋章が異国情緒を誘います。

(博物館学芸員 石原 浩)

【展示案内】

企画展

「夏の風物詩

～妖怪絵巻・朝顔絵巻・

ガラスの器・唐銅と青花～

会期 開催中～9月30日(土)

開園 午前9時～午後5時

※入園は午後4時30分まで

閉園日 毎週月曜日

(祝日の場合はその翌日)

観覧料 一般500円、小中学生250円

問合せ 松浜軒／松井文庫 ☎330171

見たくない、悲しいことは
交通死亡事故多発!!



STOP
交通死亡事故

今年は、すでに6人の命が失われています。(6月26日現在)
家族や大切な人を悲しませないためにも、交通安全を心がけてください。

八代市・八代警察署

みんなで守る「飲酒運転を絶対にしない、させない」

七夕行事 (国選択無形民俗文化財)
たなばたつな
「八代・芦北の七夕綱」



八代・芦北地域には、月おくれの七夕の前日(8月6日)、地区内の川に綱を張り渡し、ワラで作った細工物をつり下げる七夕行事が伝わっています。細工物には彦星・織姫の人形、ツル、カメ、タコ、ヤモリ、ウマ、タマゴ、タワシ、ワラジなどがあり、この綱を渡って彦星と織姫が出会う、疫病が集落に入るのを防ぐ、先祖の霊が綱を渡ってやって来るなどの伝承があります。

現在、市内で唯一七夕綱が伝承されている坂本町中谷の木々子地区では、8月6日(日)の朝から地区内の地藏堂でワラ細工作りが行われ、昼前に中谷川に綱が張り渡されます。

一緒に簡単なワラ細工を作ることもできますので希望する人は文化振興課または八代七夕綱保存会まで問い合わせください。

この七夕綱は8月末まで張られています。

■問合せ 文化振興課 ☎33-4533

八代七夕綱保存会(久保田) ☎45-2637